

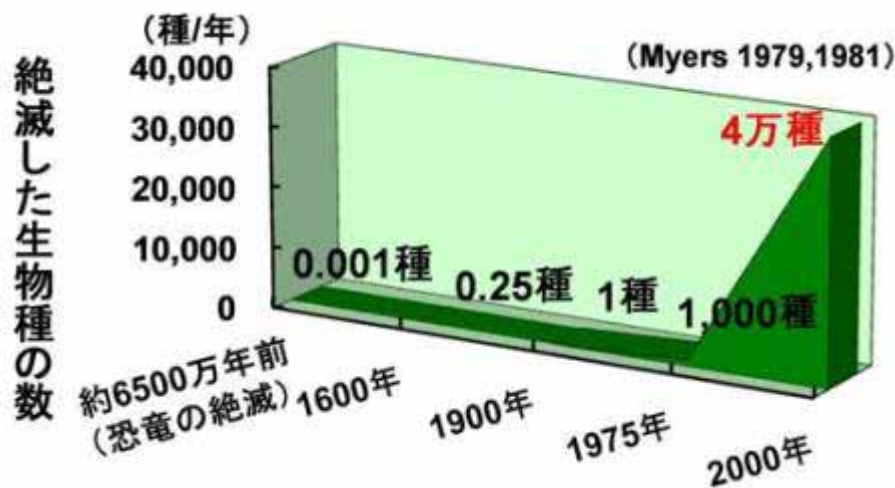
生物多様性・COP10 とは

生物多様性の現状

現在、世界中で数多くの野生生物が絶滅の危機に瀕しています。IUCN(国際自然保護連合)がまとめた2008年版の「レッドリスト」には、絶滅のおそれの高い種として8,462種の動物や8,466種の植物がリストアップされています。日本においても、2006～2007年に公表された環境省版レッドリストに3,155種が絶滅のおそれのある種として掲載されています。



このような状況より、現代は恐竜の絶滅以来の第6の大絶滅時代にあると言われていました。しかも、1年間に約4万種と言われる現在の絶滅のスピードは、恐竜時代の絶滅速度よりはるかに速いのです。



こうした生物種の減少の原因のほとんどが、開発や乱獲、外来種の持ち込みなど人間の活動にあると言われています。人間は、地球生態系の一員として他の生物との共存を求められているにもかかわらず、一方的に生物に影響を与え、絶滅の危機を引き起こしているのです。

私たちの生活に必要な生き物でなければ別にいい、と思われる方もいるかもしれませんが、しかし、すべての生き物はつながりあって生きており、思わぬところで私たちの生活に影響を与えるかもしれないのです。



生物多様性条約事務局の作成した[侵略的外来種の啓発冊子](#) (日本語版製作:近畿大学) (PDF形式(1.24MB) [新しいページで開きます。](#)) をこちらからご覧になれます。

なお、この冊子についてのお問合せは、国連環境計画/生物多様性条約事務局 プログラムオフィサー(侵略的外来種プログラム担当)志村様(メールアドレス:junko.shimura@cbd.int)までお願いいたします。